令和２年度　まちの保健室委員会　活動報告

■　委員名	委 員 長：是川こはる 副委員長：大久保雅子 委　　員：矢持恵美・泊菊子・山口みゆき・谷口久美・岩村充恵・ 大原由子・橋本あゆみ・中前日里・西中いずみ・大迫しのぶ・冨田由子
■開催回数	11回（2回～11回はWeb会議）
■活動目標	１.県民の視野に立ち、日常に基づいた「まちの保健室」活動を継続する。 ２．地域課題の多様化に伴い支部ごとに特徴的な活動を創出し、受診奨励・健康寿命の延長を図る。
■活動内容	１．県民の視点に立ち、日常に基づいた「まちの保健室」活動を継続する。 １）新型コロナウイルス感染症の影響により３月からほとんど活動はできなかった。 阪神北、阪神南（リモートでの子育て相談）、神戸中部、神戸西部、但馬支部において活動され、35回の活動があった。出前隊活動回数は11回。 ２）「まちの保健室」研修会　令和３年２月27日　参加者45名 テーマ：　コロナ禍のまちの保健室活動の在り方を考える ①　講演 テーマ：看護専門職によるオンラインコミュニティづくり ～ウィズコロナ時代の地域支援～ 講師：林知里　氏　　兵庫県立大学　地域ケア開発研究所　教授 ②　グループワーク　　会場とWebで実施 ・withコロナ「まちの保健室」の在り方について語り合おう ・コロナ禍での苦労話、今後の活動の在り方など ２．地域課題の多様化に伴い、支部ごとに特徴的な活動を創造し、受診奨励・健康寿命の延長を図る。 新型コロナウイルス感染症の影響により活動できているところは３支部/9支部中の活動のみ 神戸西部　神戸市看護大学　「物忘れ看護相談」「心と身体の看護相談」 予約制で実施　（5～10名の参加） 阪神南　　オンラインでの子育て相談 但　馬　　認定こども園、保育園での手洗いチェックや夏に多い感染症の講演 なお、新型コロナウイルス感染症患者が８月に発生あり、以後の活動は中止となる。
■活動の評価	新型コロナウイルス感染症の影響で、対面での健康相談が躊躇される状況となり活動も制限された。リモートや時間制限、予約制をとって活動できているところもあるが、来場者が高齢者、不特定多数であり、３密の状況となるため活動を今年度１年中止している支部もあった。今後、コロナ禍での活動の在り方を考える上で、令和２年度に実施した「まちの保健室」委員会の研修会は有意義な意見が得られたため、これらを踏まえて今後の活動を検討したい。
■今後の課題	コロナ禍でまちの保健室活動の活動をafterコロナに継続でき、感染対策を講じた上での活動の在り方を構築する。